

第 38 期（令和 5 年度）決算等の概要

当期（令和 5 年度）は、5 月に新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけが「5 類」に移行したことで行動制限は解除され、社会経済活動が正常化する中、輸送人員についても一定の回復がみられました。

このような状況のもと、当社では安全・安定輸送の確保を最優先課題とし、お客様のニーズに応じた輸送サービスの提供、更なるご利用の促進を図るため各機関との連携の強化のほか、安全確保を前提とした上でのコストダウンの推進等、収支の改善に取り組みました。

安全・安定輸送の確保については、列車運行管理のための装置や車両用機器等の老朽取替、土木構造物等の修繕等を実施しました。鉄道輸送については、全線において概ね 1 時間あたり 4 本の列車本数を確保するとともに、平日朝の通勤時間帯では三河豊田駅～新豊田駅間にシャトル列車を運転するなど、利便性の高い輸送サービスを提供したほか、3 月には J R のダイヤ改正に合わせ、岡崎駅及び高蔵寺駅で乗り継ぎ時間を考慮した時刻の修正を行いました。

また、利用促進として、運行情報やイベント情報等をホームページや SNS で発信したほか、ジブリパーク第 2 期開園にあわせた 1 日フリー乗車券の発売、愛知環状鉄道連絡協議会と共同での愛環ぶらっとウォーキングの開催、県や沿線市と連携した大河ドラマの放映に関連した取組を行いました。

こうした結果、輸送人員は 1, 6 2 4 万人（対令和 4 年度比 109.3%、対令和元年度比 86.2%）、運輸収入は 3 7 億 4 千 2 百万円（対令和 4 年度比 111.2%、対令和元年度比 86.5%）となり、営業収益については 4 2 億 3 千 4 百万円、営業費用は 4 5 億 8 千 9 百万円、営業損失は 3 億 5 千 4 百万円、経常損失は 3 億 1 千 7 百万円となりました。

そうした中で、特別利益として、国、愛知県及び沿線市からの補助金受入等もあり、当期は 4 期ぶりに純損益が黒字となり、1 億 2 千万円の純利益を計上しました。